


7階に病院図書室(休憩スペース)を設置しました

当院7階のエレベーターを降りるとオレンジ色の温かく明るい空間が広がります。ここが「病院図書室」です。まだでき上がったばかりなので、本数は少ないのですが、少しずつ増やしてまいります。貸し出しはしておりませんので、図書室内でお読みいただき、元の書棚にご返却いただきますようお願いいたします。なお入院患者さんや職員も利用させていただきますので、快適な空間づくりにご協力ください。


セカンドオピニオン外来とは

セカンドオピニオン外来は、当院以外の医療機関に通院している患者さんを対象に、診断内容や治療法に関して、意見・判断を提供し、今後の治療の参考にしていただくことを目的としています。ご希望の方は、まず現在の主治医と相談の上、セカンドオピニオン外来にお申込みください。通常の外来受診とは異なりますのでご注意ください。

なお、当院での診療内容に関して、他院でのセカンドオピニオンを希望される方は、診療情報提供書や資料を用意いたしますので、担当医にお申し出ください。

■ 問い合わせ先
 セカンドオピニオン外来
 TEL : 03-5803-4568 FAX : 03-5803-0119


梅いち輪募金にご協力ください

梅いち輪募金(東京医科歯科大学医学部附属病院支援基金)は、患者さんから寄せられるサービス改善のご要望を、できるところから実現するために活用させていただき基金です。一口1000円からお申込みいただけます。詳しいことは下記までお問い合わせください。

■ 問い合わせ先
 東京医科歯科大学医学部附属病院総務課
 TEL : 03-5803-5097
 Email : syomu2.adm@tmd.ac.jp


東京医科歯科大学基金のお願い

東京医科歯科大学基金は、皆様のご支援により、世界中で活躍する医療人を育み、知と癒しの匠を創造するために、国際交流事業、学生育成奨学事業などの「基金事業」に活用されます。ご寄附は一口1万円からお申込みいただけます。寄附方法については

- ①振込用紙により郵便局又は銀行から振込み
- ②インターネットでのお申込(クレジット決済)
- ③現金のお持ち込み

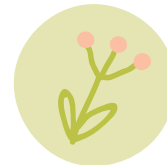
のいずれかにより受け付けております。また、税制上の優遇措置が講じられます。詳しいことは下記にお問い合わせください。

■ 問い合わせ先
 東京医科歯科大学募金室
 TEL : 03-5803-5009
 Email : kikin.adm@tmd.ac.jp


献体のご紹介

献体とは、医学・歯学の大学における解剖学の教育・研究に役立たせるため、自分の遺体を無条件・無報酬で提供することをいいます。自分の死後、遺体を医学・歯学のために役立てたいと志した方は、まず最初に生前から献体したい大学や団体に名前を登録しておく必要があります。献体に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

■ 問い合わせ先
 東京医科歯科大学献体の会事務局
 TEL : 03-5803-5147

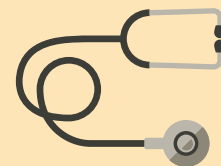

全診療科における完全紹介制の導入について

当院では全診療科において、完全紹介制とさせていただきます。当院に初めておかけの場合、新たな診療科におかけの場合、前回の来院より3ヶ月以上経過している場合は、原則として他の医療機関からの紹介状(診療情報提供書)が必要となります。

《例》他の医療機関からの紹介状(診療情報提供書)が必要になるのは…

- ・ある科を受診中の方で、別の診療科を初めて受診したい場合
- ・過去に受診した診療科でも、自己判断により3ヶ月以上受診がない場合

完全紹介制を導入した経緯は、専門的な診療を提供する大学病院としての使命と役割を果たすためですので、ご理解・ご協力をお願いいたします。


東京医科歯科大学医学部附属病院
「みんなの健康を育む病院だより」


研修医と大川病院長

ロボット支援手術を行う診療科が増えました

東京医科歯科大学医学部附属病院
 病院長 大川 淳 (おおかわ・あつし)

2017年に導入した手術支援ロボット「ダビンチ Xi」を使って手術を行う診療科が増え続けており、手術時間や入院日数の短縮などが実現されています。この背景には低侵襲センターがほぼ毎週実施しているロボット手術に関する症例検討会や技術認定試験などの地道な努力で、技術力の維持向上を行っていることが功を奏しています。

近年、医療スタッフの働き方に関する見直しが求められています。一方で当院では24時間365日、さまざまな医療スタッフが患者さんを受け入れ、救急医療に貢献してきた伝統と実績があります。一方で子育てや介護をしながら働くスタッフも多いため、患者さんへの負担は最小限にと配慮しながら、作業の効率化を図っておりますことをご理解ください。

大学敷地内での全面的な禁煙が決まりました。私の専門の整形外科からみると、たばこは神経や骨にも悪い影響があります。局所の血流障害のために、神経の圧迫を解除する手術をしても神経回復が遅れ、骨折では骨のつきも悪くなります。椎間板も早く加齢性変化を起こすという研究もあります。せっかく大変な思いで手術をしても、医師の努力も患者の我慢も徒労に終わってしまいます。がんになるだけでなく、それ以外の病気に対してもたばこがよくないことは明らかです。敷地内での全面禁煙にご理解とご協力をお願いします。

INDEX

- 病院長ご挨拶
- ロボット支援手術を行う診療科
- 先端人間ドック
- 総合診療科がスタート
- 国際医療部が誕生
- 変形性膝関節症
- 新任科(部・センター)長
- 患者満足度調査
- 1月13日開催「がんを考える」市民公開講座
- 病院図書室(休憩スペース)設置
- 梅いち輪募金、大学基金
- セカンドオピニオン外来
- 完全紹介制の導入



手術室での安全確認

中学生医療体験講座



ロボット支援科手術を行う診療科が増えています

当院では最新の手術支援ロボット、da Vinci Surgical System Xiを2017年に導入し、次世代の内視鏡下手術であるロボット支援下手術を開始しております。現在、大腸・肛門外科、胃外科、泌尿器科、周産・女性診療科の4診療科において、一部のロボット支援下手術を保険診療で行っており、今後も多くの診療科でスタートしていく予定です。

大腸・肛門外科



絹笠 祐介 科長

きぬがさ ゆうすけ

日本外科学会認定外科専門医・指導医
日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医
日本大腸肛門病学会認定大腸肛門病専門医・指導医



痛みが軽く、回復の早い腹腔鏡手術も積極的にを行い、直腸がんに対するロボット支援下手術を国内最多の実績を持つ指導医を中心に行っています。2018年4月からロボット支援下直腸手術が保険収載され、当科では健康保険でロボット手術が受診可能です。

● 取り扱うおもな疾患

大腸がん（結腸がん、直腸がん）、大腸ポリープ、再発大腸がん、大腸がんの肝転移、肺転移（手術、抗がん剤治療）、炎症性腸疾患（潰瘍性大腸炎、クローン病）、家族性大腸腺腫症、肛門疾患（痔核、痔ろうなど）

● 高度な先進医療

直腸がんに対するロボット手術、大腸がんに対する究極の肛門温存手術（括約筋温腸切除術ISR）、直腸がんに対する自律神経を温存した側方郭清手術など。

胃外科



井ノ口 幹人 科長

いのくち みさと

日本外科学会認定、外科専門医・指導医、日本消化器外科学会認定消化器外科専門医・指導医



胃外科は、胃の病気全と、胃切除後の胆石症や鼠径ヘルニアなど、一般外科疾患の診断と治療を行います。特に胃癌の腹腔鏡下手術では、日本有数の症例数と治療成績を有しています。胃癌のロボット支援下手術を保険診療で行っています。

● 取り扱うおもな疾患

胃癌、胃GIST、胃・十二指腸潰瘍、胆石症、鼠径ヘルニア、急性虫垂炎、病的肥満症に対する外科治療

● 高度な先進医療

腹腔鏡手術の黎明期より腹腔鏡下胃切除術を開始しており、1000例を超える治療実績を有しています。その経験を活かし手術の難しい進行胃癌や胃全摘術に対しても腹腔鏡手術を提供しています。また、2018年4月よりロボット支援下胃切除術が保険適応となりました。当院は施設基準を満たしており、ロボット支援下胃切除術も保険診療で受けることができます。

泌尿器科



藤井 靖久 科長

ふじい やすひさ

日本泌尿器科学会認定 泌尿器科専門医



当科では泌尿器がんのガスレス・シングルポート・ロボサージャン手術、浸潤性膀胱がんの膀胱温存、腎がんの無阻血・無縫合腎部分切除、前立腺がんの部分治療など、オリジナルな治療法の開発と洗練を進めています。前立腺がんのロボット支援下手術を保険診療で行っています。

● 取り扱うおもな疾患

前立腺がん、腎がん、膀胱がん、腎盂・尿管がん、副腎腫瘍、精巣がん、後腹膜腫瘍、前立腺肥大症、神経因性膀胱、尿路結石、尿路感染、尿失禁、骨盤臓器脱

● おもな診断・治療法

前立腺がん：ダビンチ前立腺全摘除、ミニマム創ロボサージャン前立腺全摘除、MRI-超音波融合ガイド下前立腺生検、全機能温存部分小線源治療腎がん：ミニマム創ロボサージャン無阻血腎部分切除膀胱がん：浸潤性膀胱がんの膀胱温存（放射線＋化学療法＋ハイブリッド・ミニマム創ロボサージャン膀胱部分切除）。ミニマム創ロボサージャン膀胱全摘除骨盤臓器脱・尿失禁：腹腔鏡下仙骨腫固定術、TVM手術、人工尿道括約筋手術、TVT/TOT手術

周産・女性診療科



宮坂 尚幸 科長

みやさか なおゆき

日本産科婦人科学会認定 産婦人科専門医



女性の一生を通じての生理的・病的な現象に対処しています。ハイリスク妊娠・分娩の管理、婦人科腫瘍の手術・化学・放射線療法、腹腔鏡下手術療法、ロボット支援下手術、難治性不妊に対する生殖補助医療、更年期女性に対する総合的診療などに良好な治療成績を得ています。悪性腫瘍ではない子宮全摘手術のロボット支援下手術を保険診療で行っています。

● 取り扱うおもな疾患

合併症妊娠・分娩、ハイリスク妊娠・分娩、婦人科悪性・良性腫瘍、難治性不妊（一般不妊治療、体外受精・胚移植・顕微授精）、がん・生殖医療（未受精卵凍結、卵巣組織凍結、精子凍結）、不育症、更年期障害など。

● 高度な先進医療

ロボット支援下による悪性腫瘍摘出手術や子宮筋腫の手術などは、現在自費診療ではありますが、入院日数の短かさや出血量の少なさ、精密な縫合操作などのメリットがあります。また総合病院の特性を生かした合併症妊娠やハイリスク妊娠・分娩の管理、婦人科悪性腫瘍の術後化学療法、高レベルの腹腔鏡下手術、IVF-ET・顕微授精などの生殖補助医療などがあります。

先端人間ドック

高度・先端医療と研究を担う本学の医学部・歯学部との両附属病院がベースとなり、長寿・健康人生推進センターが病気の予防と健康維持をトータルにサポートする「先端人間ドック」をご紹介します。

当センターの先端人間ドックは、コースメニューとして、3日間（女性は3日半）で全身の詳しい検診を受けたい方向けの「フルプログラム」と、1日（女性は1日半）で主要な検査を受けたい方向けの「エッセンシャルプログラム」を用意しております。また、個別の臓器を重点的に検査したい方向けの「個別プログラム」（心臓ドック、脳ドック、胃がん・大腸がん検診、女性専用がん検診、泌尿器科がん検診、すい臓がん検診など）もご紹介します。



● 長寿・健康人生推進センターとは？

高度・先端医療を担う東京医科歯科大学の医学部・歯学部の両附属病院がベースとなって、病気の予防と健康維持をトータルにサポートするために設置された施設です。大学病院ならではの豊富な先端的検診メニューを組み合わせて、個人ごとに最適な検診プログラムを提供します。企業等と連携して社員の健康維持をサポートする法人会員制と、一般個人会員制をご用意し、様々な健康相談に応じます。



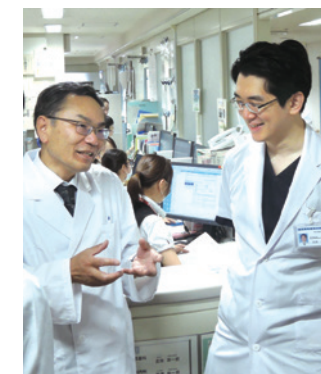
■ 連絡先

長寿・健康人生推進センター

TEL：03-5803-4194（平日14:00～16:00）

ホームページ：<http://www.tmd.ac.jp/medhospital/chouju/>

メールアドレス：app.pmh@tmd.ac.jp



総合診療科

総合診療科は、2018年7月に設立されました。目の前の患者さんはもちろん、そのご家族や地域との連携も考慮し、地域の医療・福祉との連携を重視します。院内外の専門診療科や他の医療施設、そして保健・福祉の部門との連携を重要視しています。大学病院の果たすべきニーズに配慮しつつ全人的医療を展開いたします。



国際医療部が誕生



東京は近年、国際都市としてますますの発展を遂げており、外国人居住者が増加しています。また2020年開催の東京オリンピックに向け、日本政府は国を挙げて訪日外国人数の増加に取り組んでいます。そのような環境の中、2016年に標榜を開始した精神科国際医療外来が契機となり、外国人患者の診療に必要なサポートを行い、円滑に医療サービスを提供するための体制整備を行うことを目的とした国際医療部が設立されました。国際化する現代社会で外国人対応することは、誇りを持った現代の医療者の務めであると考えます。また外国人診療を通して得られた知識や経験により、医療全体の質の向上につながると考えています。





膝の痛み、腫れがあったら… 変形性膝関節症 かも！

Q. 変形性膝関節症とは？

変形性膝関節症は、膝関節の形や軟骨に異常が起こり、膝関節が徐々に変形していく病気です。症状は、軟骨や半月板が摩耗したり断裂したり、あるいは消失したりして、大腿骨と脛骨が直接ぶつかるために、膝に水が溜まったり痛みや腫れなどが生じます。発症すると加齢とともに次第に悪化し、変形してしまうと元の状態に戻すことはできません。

Q. 治療法は？

薬物療法、大腿四頭筋訓練などの運動療法、足底板などの装具療法、ヒアルロン酸の関節内注射などが外来での保存療法として最初に試みられます。十分な保存療法でも痛み、膝関節の腫れが続く方、X線やMRI 検査で軟骨の摩耗が進行する方に対して、病気の進行の度合い、患者さんの活動性に応じた手術療法を選択します。

Q. 手術は？

変形性膝関節症に対して一般的に行われる3つの手術をご紹介します。

◆半月板修復術

半月板には膝関節の滑らかな動きを助ける重要な役割（荷重の伝達分散、関節安定性の寄与、潤滑の補助）があり、その損傷や欠損などで半月板の機能が低下すると、軟骨にかかる負担が増加し、摩耗が急速に進行します。そのため当科では変形性膝関節症の予防、進行を止めるために半月板を切除するのではなく関節鏡（内視鏡）下の修復術を積極的に行っております。

◆骨切り術

変形が内側の部分に局限している方では、骨の内側に切り込みを入れてくさび形の人工骨を挟み込み、O 脚をややX 脚にして、ひざの内側にかかりすぎている重心を外側に移動する手術です。骨を切った箇所は骨との親和性がよいチタンプレートとボルトで固定します。チタンはMRI 検査の際にも問題がない素材です。高齢者に多い骨粗しょう症の方でも問題ありません。



詳しくはHPをご覧ください。
整形外科外来 膝関節疾患
<http://tmdu-orth.jp/knee-disease/>
運動器外科学講座
<http://tmdu-orth.jp/knee-disease/>

こんな症状は要注意です！

- 歩行や階段の上り下りで膝が痛む
- 正座ができなくなった
- 膝が腫れている



◆人工関節置換術

全人工膝関節置換術（TKA）は変形が内側だけでなく外側や、お皿の骨の部位にも及んでいる方、内側だけですが変形が高度な方が対象となります。また当院では両方の膝が悪い方には両側同時手術も行っており、片側の手術と同じ手術時間で行うことが可能です。人工関節置換術は変形した関節を、金属やセラミック、ポリエチレンなどでできたインプラントで入れ替えることで痛みがなくなり、歩行能力がかなり改善されます。



Q. 手術後のケアは？

当院では手術後もきめ細かなフォローアップを行い、患者さんの早期回復に努めます。リハビリテーション科医師、理学療法士などが早期に無理なく可動域を広げる練習や、歩行訓練を、患者さんに寄り添いながら行います。



NEW 新任科(部)長・センター長のご紹介

新たに就任した当院スタッフからのメッセージをご紹介します。

糖尿病・内分泌・代謝内科



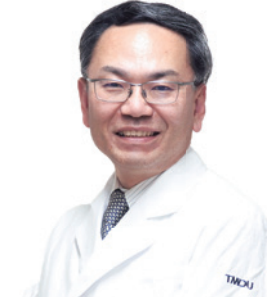
山田 哲也 科長

Tetsuya Yamada

高い専門性を生かした
糖尿病、内分泌、代謝疾患の
診療を行なっています

内分泌疾患、糖尿病や肥満症を中心とする生活習慣病において、高い専門性に立脚した先進的な医療を展開しています。「臓器連関」「エビデノム」「慢性炎症」「異所性脂肪蓄積」をキーワードとした生活習慣病の基礎・臨床研究、内分泌疾患の分子医学的研究により、新しい検査法、診断法、治療法の開発を目指しています。

総合診療科



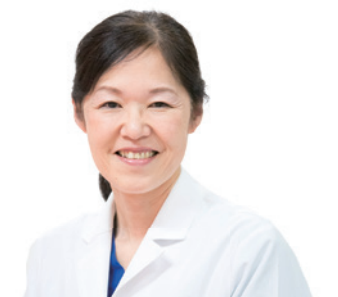
竹村 洋典 科長

Yousuke C. Takemura

世界トップクラスの地域医療を
目指しております

自分たちでいろいろな病気を横断的に診るだけではなく、医療や保健、福祉の部門の力を借りつつ皆様のケアします。高度先進医療の包括的なケアや他の部門との連携を重視して他の医療福祉施設などとの連携を配慮していきます。家族や地域を診る視点も重視しています。皆様のニーズに合った医療を心掛けつつ、少子高齢化する未来の日本に合致した医療を模索したいと考えております。

リハビリテーション部



酒井 朋子 部長

Tomoko Sakai

当院の幅広いニーズにお答えし、
疾患からの能力回復を援助します

現在の急性期リハビリテーションは、運動器、脳、神経疾患から、呼吸器、心臓、がんリハ等、多様な領域の疾患を対象としています。また介入時期も極早期のICUから終末期の緩和ケア病棟まで幅広くなっています。院内の多様な疾患ニーズに対し、重症度に対する安全管理に配慮しながら適切な医療が提供できるよう努めます。

心身医療科



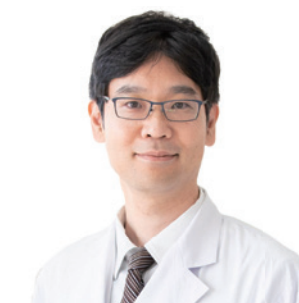
竹内 崇 科長

Takashi Takeuchi

緩和ケアを中心に身体疾患の
治療のメンタルケアを行っています

身体疾患の治療において精神面に対するケアは欠かせません。緩和ケアを中心に、精神科医、臨床心理士が専門的な立場から、身体科のスタッフを支援しつつ、患者が身体疾患の治療に安心して向き合っていけるように日々活動しています。

国際医療部



上里 彰仁 部長

Akihito Uezato

外国人患者さんに円滑な
医療サービスを提供する体制を
構築します

訪日観光客や日本に中・長期滞在する留学生、外国人労働者などの増加に伴い、当院を受診する外国人患者が増えています。国際医療部は、外国人診療における言葉や文化の壁、滞り資格や未収金など様々な問題を解決し、病院スタッフと患者・家族双方のサポートを行うことを任務としています。

輸血・細胞治療センター



関矢 一郎 センター長

Ichirou Sekiya

安全な輸血療法と
先進的な細胞治療・再生医療を
提供します

安全な輸血に必要な検査・技術を提供するとともに、救命救急センターの緊急性の高い輸血やNICUなど特殊性の高い輸血にも対応しています。また、様々な診療科・研究室で開発された先端医療技術を実用化するために、清浄度の確保された施設で、再生医療・細胞治療用の細胞を調製しています。

院内施設面の充実、待ち時間の短縮、さらなるサービス向上に努めます



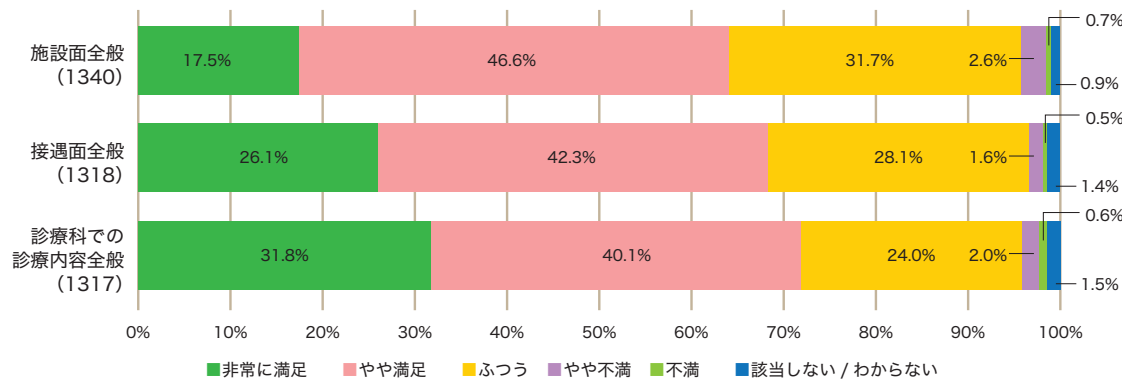
当院では、外来および入院の患者さんを対象に、定期的に満足度調査（アンケート）を実施し、結果をまとめ公表しております。平成29年12月～平成30年2月に実施した「患者さん満足度調査」の結果についてご紹介いたします。

「当院の満足度」に関して外来患者さんは、施設面、接遇面、診療内容全般の3つの項目すべてについて、「やや不満」「不満」が全体の4%未満という結果でしたが、入院患者さんの「院内施設面全般」に関する不満の声が7.7%と他に比べて高く、改善する必要性を感じました。

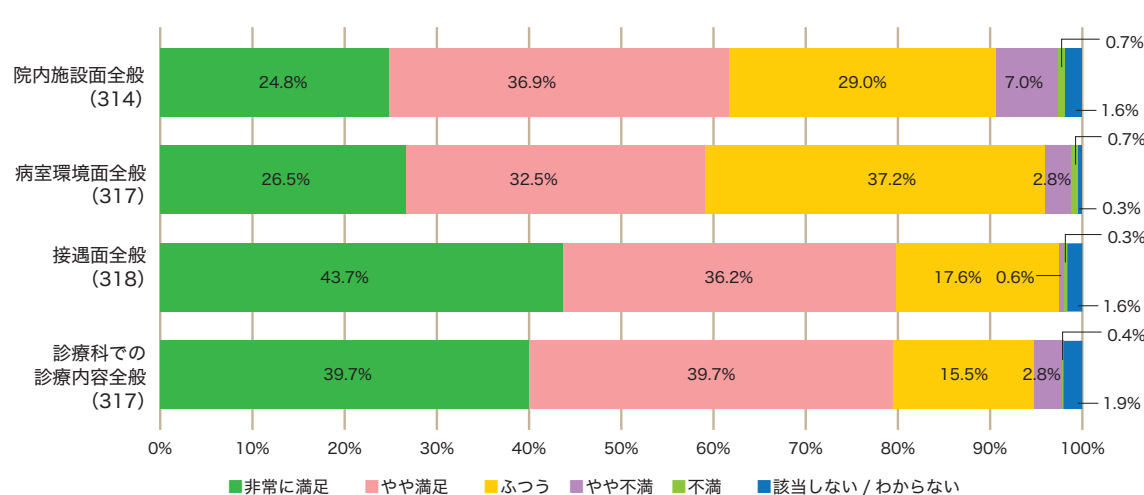
外来患者さんからのご意見（総数233件）の中には、「待ち時間が長い」が59件（25%）と一番多く、次いで「トイレの設備について」が19件（8%）、「エレベーターに関する改善」が11件（5%）ありました。

入院患者さんからいただいたご意見（総数115件）のうち、「エレベーターに関する改善」が25件（22%）と一番多く、次いで「トイレの設備について」が17件（15%）ありました。トイレに関するご意見が、外来、入院共に一番多く、施設が老朽化してきていることが要因と考えられ、今後の病院改善の課題となっております。またエレベーターに関する意見につきましては、エレベーターの更新時期と重なりまして大変ご迷惑をおかけいたしました。ご協力いただきました患者さんには心からお礼申し上げます。アンケートの結果や患者さんから寄せられた貴重なご意見を参考に、より良い病院サービスを提供して参ります。

●外来患者さんの満足度【調査日：平成30年2月22日～23日/カッコ内の数字、有効回答数】



●入院患者さんの満足度【調査日：平成29年12月18日～23日/カッコ内の数字、有効回答数】



第5回「がんを考える」市民公開講座を開催 ～2019年1月13日(日)～



がんを考える!

がん診療連携拠点病院の活動の一環として、がんに関する様々な情報提供を目的とした公開講座を行っています。

第5回は、「がん治療とQOL（生活の質）」をテーマに、QOLががんの治療成績に与える影響の大きさ、治療中でも患者さん自身がQOLの維持に、積極的に取り組む意義を知っていただき、QOL維持に役立つ工夫や情報を提供したいと考えております。各種ブース展示、体験コーナーなど、楽しく学べる企画を準備中です！参加費は無料、事前予約不要です。詳細は右記をご覧ください。

開催日	2019年1月13日(日)
ブース展示 12:00～17:00	がん患者さん向けの栄養・食事・口腔ケアに関する展示/ウィッグ・メイク・補正下着・パッドなどのご紹介/看護師による相談ブース/がん患者さん向けの家計・仕事相談ブースなど多数展示予定
セミナー 13:00～16:40	緩和ケア病棟/がんのリハビリテーション/栄養と食事/摂食嚥下/遺伝性乳がん・卵巣がん外来などに関する講演/パネルディスカッションなど
場所	東京医科歯科大学M&Dタワー2階 鈴木章夫記念講堂
お問合せ	東京医科歯科大学医学部附属病院 腫瘍センター TEL: 03-5803-4886 (平日9時～16時半)
共催	医学部附属病院腫瘍センター/医学部附属病院消化器化学療法外科/大学院臨床腫瘍学分野/大学院未来がん医療プロフェッショナル養成プラン

トピック2 治験のご案内

治験は薬や医療器具の実用化に直結する最も重要な臨床研究で人に対しての有効性（効果）や安全性（副作用）などを確認するために実施されます。治験や臨床試験を通じて医学の進歩に貢献すべく、様々な活動を行っています。現在当院では下記の疾患を対象とした治験に参加していただける方を募集しています。詳しいことは臨床試験管理センターにお問い合わせください。

【症例募集中の対象疾患】

消化器内科：潰瘍性大腸炎、クローン病/循環器内科：非弁膜性心房細動、心不全/呼吸器内科：特発性肺線維症/小児科：難治性小児悪性固形腫瘍、胃潰瘍又は十二指腸潰瘍の再発抑制/肝胆膵外科：神経内分泌腫瘍/膠原病・リウマチ内科：成人性特発性炎症性筋疾患/食道外科：食道がん/脳神経外科：てんかん/整形外科：変形性関節症（肩・肘・股）/泌尿器科：腎細胞癌、尿路上皮癌/頭頸部外科：局所進行頭頸部扁平上皮癌、再発又は転移性頭頸部扁平上皮癌、/ICU：敗血症に伴う頻脈性不整脈/神経内科：多系統萎縮症（2018年11月現在です。最新情報は臨床試験管理センターへ）

臨床管理センター
TEL:03-5803-5612 (平日9時～17時)
メール: tiken.crc@tmd.ac.jp



トピック3 記者懇談会でアレルギー疾患先端治療センターを紹介



記者懇談会でアレルギー疾患先端治療センターを紹介

9月4日に開催された東京医科歯科大学記者懇談会で、当院の「アレルギー疾患先端治療センター」が「本学の特色ある活動」として紹介されました。このセンターは皮膚科、呼吸器内科、耳鼻科、小児科に所属するアレルギー関連の専門医が協力して患者さんを総合的に診療する専門外来です。おもに気管支ぜん息、アトピー性皮膚炎、アレルギー性鼻炎、アレルギー性結膜炎、花粉症、食物アレルギーなどの患者さんを診ており、複数のアレルギー症状や疾患を持つ患者さんには便利な専門外来です。

トピック4 救急医療やカテーテル治療を体験 中学生医療体験教室を開催

大勢の優秀な医療人を育成し、世界的にも価値が認められる診療や研究を行っている東京医科歯科大学では、都内在住又は都内の中学校に在籍する中学生100名を招待し「医科歯科大 中学生医療体験教室」を開催しました。今回は、医科と歯科の連携をテーマに、救命救急、カテーテルによる脳梗塞治療、口腔ケアなどを中心に体験してもらいました。

